海外だより

モンゴル国からの活動報告 14 専門研修の修了生の活躍とカリキュラムの強化に関する活動

池本めぐみ
国立国際医療研究センター　国際医療協力局　助産師

はじめに

私は，2021年4月から2024年6月まで，独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency：JICA）の技術協力プロジェクト「医師及び看護師の卒後研修強化プロジェクト」の長期専門家として，国立国際医療研究センターからモンゴル国（以下，モンゴル）に派遣されました。プロジェクトが終了する2024年12月までは，助産分野を担当し，日本国内からオンラインを活用した活動と，複数回の短期派遣により活動を継続しています。今回は，3年2か月の長期派遣の間に実施した活動の中でも，助産師の活躍が光り始めている専門研修の導入後の進捗と修了生の活躍をご報告させていただきます。

背景

2021年12月，モンゴルの母子保健の向上，女性や社会のニーズに対応する等のために保健大臣令A774が発令され，保健省，保健開発センター，モンゴル医科大学，助産師らと助産師の専門研修（5領域：母乳育児，家族計画，性と生殖に関する健康等）を開発しました（『助産師』76巻4号2022年11月号で報告）。2023年3月に5領域のカリキュラムが保健省で承認を受け，2023年4月にモンゴル国で初めての助産師の専門研修が導入されました（『助産師』77巻3号2023年8月号で報告）。2024年6月現在，専門研修5領域で合計29名が修了しています。

専門研修のカリキュラム強化に関するニーズ

2023年4月から助産師の専門研修が導入され，2024年2月に2期生の専門研修が終了しました。2024年3月，専門研修の導入・実施を通し，研修内容，研修生の評価，研修を受講した感想，改善点等を研修修了生，指導者，モンゴル助産師会，モンゴル医科大学の教員らと振り返りを行いました。研修修了生からは，研修で学んだこと，職場での活躍が期待されていること等が話されました。指導者の教員からは，開発した研修のカリキュラムに沿って研修を実施できたことが報告されました。振り返りを通して，更に研修内容を充実・強化するためには，障がいを持つ妊産褥婦への助産ケア，グリーフケア，女性への暴力の早期発見と対処等の研修内容の強化が必要であることが分かりました。

ワークショップの開催

専門研修の研修内容の更なる強化のために，2024年6月5～6日，障がいを持つ妊産褥婦へのケアおよびグリーフケアに関するワークショップを開催しました。ワークショップには，専門研修を指導するモンゴル医科大学の教員，モンゴル助産師会，現在の専門研修の研修員及び修了生らが参加しました。

ワークショップの参加者

日本からは，大阪母子医療センターの藤川陽子助産師が短期専門家として「障がいを持つ妊産褥婦へのケア」「周産期におけるグリーフケア」をご講義くださいました。概念的な内容から臨床現場での実際のケアについて具体的な事例をご説明くださいました。ご講義は，豊かなご経験と母子や妊産褥婦を想う一人の助産師としての温かい心を感じさせてくださるものでした。

モンゴルでも新しい概念であるグリーフケアについては，モンゴルの助産師らが死産の母親に関わる中での悩み，医師との関係，どのように対処したのか，さらには自己や家族の辛い経験が共有されました。日本の助産師も数十年かけてグリーフケアについて試行錯誤してきた経験があるため想像しやすいと思いますが，モンゴルの助産師らが周産期の死産に関するさまざまなことを話せる場をやっと見つけたような雰囲気でした。藤川短期専門家は，子どもを亡くした妊産褥婦にいかに助産師が共感し，寄り添い，癒やすことの大切さについて，事例や声のかけ方の例を詳細に共有してくださいました。藤川短期専門家がご教授くださった，対象者に「寄り添う」という姿勢は，モンゴル国の保健大臣令A451で定められた助産師のコンピテンシーの「コミュニケーターとしての能力」で求められている能力です。そのため藤川短期専門家のご講義は，モンゴルの国民や保健省・保健開発センターがモンゴルの助産師に求めるとても重要な内容でした。

藤川短期専門家のグリーフケアの講義の様子

専門研修の修了生の活躍とモニタリングの必要性

母乳育児の専門研修を修了したウランバートル市バガノール地区保健センターのガンプル助産師からは，研修修了後の活動が報告されました。職場では，母乳育児のキャビネットが開設され，ガンプル助産師が配置されたそうです。現在，ガンプル助産師は，妊婦への保健指導（乳房のケアや母乳育児の効果など）や産後の相談，カウンセリング（授乳や乳房のトラブル等）を行っています。妊産褥婦からは，母乳育児のキャビネットが設置されたこと，ガンプル助産師の活動への感謝の声が寄せられていました。また、他県では，専門研修の修了生の活躍を見越して同様のキャビネットの設置を検討していることも分かりました。

このように専門研修は，助産師の能力の向上を実現するだけでなく，助産師らが専門研修の修了という付加価値を得ることにより，活躍の場，配置の場が広がることが示唆されました。また，この助産師の活躍により，母子がよりよい助産ケアを受ける機会が広がります。このような効果を活かすために，今後，専門研修を修了した助産師らの活躍や成果を定期的にモニタリングし，保健省や保健開発センターに報告すること等が重要です。そして，専門研修の修了生の活躍のモニタリングにより，専門研修の国家予算の確保や増額，助産師の配置などにつなげていくことが大切だと思います。

専門研修の実施・見直し・改善のプロセス

次回からの専門研修の講義内容には，「障がいを持つ妊産褥婦へのケア」「周産期のグリーフケア」の内容が反映される予定です。また，対象者の心理面を深く理解し，関わることができる，より充実した専門研修にアップデートされることになりました。これからも専門研修の実施・評価・改善のプロセスを繰り返し，より良い専門研修にすること，この経験を他の研修や助産教育についても活かされることを願っています。

おわりに

お忙しい中，モンゴルにいらしてくださり，大切なことをご教授くださった大阪母子医療センターの藤川陽子助産師，藤川助産師を送り出してくださった宮川祐三子看護部長をはじめ，皆様に深く感謝申し上げます。

最後になりましたが，共に活動しているモンゴルの皆様，日本からご支援ご指導いただいている皆様に深く感謝申し上げます。